

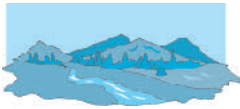
問 国見の森公園事業の検証

答 順調に整備が進んでいる

松井 甫 議員

問 兵庫県は国見の森公園の開発に、地元説明会を開くなどして事業内容、意見交換、要望などを聞き地元住民の理解と協力をえて事業を進めています。公園は8月オープン予定と聞きます。主な施設整備、比地の滝周辺整備について伺います。交流館、学習館、森林学習軌道、森林整備、ハイキング道などの整備状況について伺います。次に、比地の滝周辺整備並びに市道中比地・上比地線拡幅改良事業の見通しについて伺います。地元自治会からの要望、亀ヶ尾の周辺整備、展望台周辺の整備、他の周辺整備などについて地元自治会との協議の場を問う。

市長 先ず、交流館、学習館については、3月末竣工予定です。森林学習軌道については、7月末完了予定です。また、安全のための施設整備も進んでいます。次に、森林整備、ハイキング道の整備も順次進められます。比地の滝周辺整備も県と調整を行っています。上比地線拡幅改良事業は年次計画で進めます。地元自治会の要望については、十分検討し地元と調整をするという聞いております。



問 県の木材供給センター設置について

答 地元受け皿づくり態勢を急ぐ

岸本 義明 議員

問 林業の再生なくして宍粟市の将来展望は開けない。県が「県産木材供給センター」の設置構想を発表したが、これを宍粟で実現するためには何が課題でしょうか。この機会を逃せば、宍粟市の木材産業の再生はありえない。

問 広大な面積を有し、高齢化率の高い宍粟市では、ICTを活用したいつても、どこでも、何でも、だれでも簡単にネット社会につながる「ユビキタスネット社会」を目指す必要がある。県立大学との官学連携事業の第一番目として、効果的、効率的なサービス提供のための「情報ネットワークシステム」の構築に取組むとのことだが、市民生活に役立つどのような活用を考えているのか。

市長 市としては早くから宍粟材のブランド化を目指して森林認証システムやICTタグを使ったトレーサビリティ事業などで県と深く係ってきたので、ぜひとも宍粟で実現を図りたい。課題は地元の態勢づくりなので、関係団体の協力を得て利害を超えた受け皿づくりを早急に進めたい。

市長 内容については大学と連携して宍粟市情報化計画を作成し検討する。ユビキタスネット社会へ向けて、鋭意取り組んで行きたい。

問 一体感の醸成、職員率先すべき

答 意識改革を訴え続けている

藤原 憲男 議員

問 古くからの歴史や風土から、又広域行政をはじめとし、宍粟は一つという結びつきは確実に育まれてきた。しかし今回の合併は安富町の離脱をはじめとし、旧町時代以上にそれぞれの言い分や不信・不満が露呈してきたように感じる。一般市民以上に各市民局間職員の間にもそのような感覚があるのが気がかりだ。今回の合併は行政が主導した事を重く認識し、職員は率先して旧町間の融和・一体感の醸成に努める義務がある。多くの合併事例の中でも旧町間のせめぎ合い、不信が失敗の大きな原因とされている。一般市民以上に職員の意識改革が必

市長 機会あるごとに職員の間で意識改革を訴えている。そのように認識し、職務に励んでいると信じている。市民局の一人一人の職員と話すわけではないが、市民局長を通じて若い職員に至るまで、宍粟は一つの想いから一体感も含め夢あるまちづくりに励む事を求めている。市民局と本庁間や市民局間同士に格差や考えの違いはない。

